別紙様式

平成２５年度　附属学校プロジェクト経費にかかわる事業実施報告書

事業の名称	教科別の指導「体育科」器械運動系の内容の充実
事業実施代表者名	附属札幌小学校校長　戸田まり　附属札幌中学校長　佐藤昌彦
実施附属学校名	附属札幌小・中学校　ふじのめ学級
事業内容 （実施内容について、1,000 字程度で記述）	本学級児童生徒は知的に障がいがあり、運動面ではバランスの悪さがみられたり、体にハンデがあったりする。また、帰宅後に外で遊ぶ時間も少なく、体を動かす経験が少ない面がみられる。そこで、体育科の授業（特に器械運動系）に取り組む中で、今までも取り組んできた器械運動の充実と新たな運動を取り入れた学習活動を充実させていく。また、本学級は小学校と中学校の特別支援学級が同じ校舎の中にあるよさを生かし、９年間の成長を見通した体育科の内容の検討が必要となる。 具体的には、各学校での体育科の指導内容の検討と小・中学校特別支援学級の体育科の実践交流、授業検討を行った。その中で子どもたちがかかわり合いながら楽しく体を動かすこと、体を動かしたくなるような教材・活動の工夫、様々な体の動かし方を経験できる活動などについて考察した。 ・体育科･･･全校研及び全道教育研究会にて授業公開
成果と課題 （活動の成果と課題について、500 字程度で記述）	放課後の遊ぶ時間の少なさ等から、様々な体の動かし方を経験している児童生徒が少ないという状況である。今年度は器械運動系の授業につながるような体の動かし方ができる活動を新たに取り入れることとした。高いところに登ったり、下りたりする活動を設定し、友達とグループを作り、グループ全員が登ったり下りたりできることを目標としたことで、自分の体の動きを言語化して友達に伝えたり、友達の手を引いたり体を支えたりするといった協力する動きも出てきた。今まで経験の少なかった登ったり下りたりする動きを学習したことで、手に力を入れて体を支えたり、体のバランスをとろうとしたりすることに楽しみながら取り組むことができた。そのことで、その後の器械運動の時間にも、体の動きを自ら気を付けてマットや平均台、跳び箱などを使った学習に取り組む姿につながったと考えられる。 授業実践を小中特別支援学級担当で交流したことで、小中学校どちらにも共通する経験の少ない動きに目を向けた活動を設定したり、いろいろな体の動かし方が自然と引き出されるような場を設定したりすることで、児童生徒が楽しみながら取り組むことができた。しかし、9 年間を見通した子どもたちの成長につながるような活動、場の設定の検討までは十分とは言えない。
今後の発展性 （残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500 字程度で記述）	器械運動系は経験の少ない動きが多いため、取組を継続していくことで、子どもたちの成長する姿を追いながら、体の動かし方、バランス等がどう変わっていくか、その変化をとらえていくことが必要であると考える。 今年度の取組の中で、体を動かすことの楽しさ、友達と一緒に楽しく体を動かすことによさを感じ始めた児童生徒も多いので、今後は集団で行う運動、簡単なルールのあるゲーム的要素の強い運動などを通して、様々な体の動かし方、バランスを身に付けるとともに社会性も育んでいく必要があると考える。この点についても小中一貫して取り組むことで、発達段階、生活年齢と合わせながら９年間を見通した子どもたちの成長を考えていく。
事業の公表状況 （事業をＨＰで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入）	附属札幌小中学校ふじのめ学級全道教育大会で授業を公開

（注）当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。